

さいたま市レジヤープールの
あり方方針

さいたま市

目次

1	検討の背景と目的	1
1-1	検討の背景と目的	1
1-2	上位・関連計画等	1
2	周辺自治体の動向	4
2-1	レジャープールの保有状況	4
2-2	レジャープール等の再整備の状況・事例	8
3	現状	9
3-1	市内のレジャープールの保有状況	9
3-2	利用状況、収支状況	10
3-3	市民の意向	13
4	課題	17
5	課題解決の方向性	18
5-1	財政負担の軽減	18
5-2	地域バランスを考慮した配慮の検討	20
5-3	まとめ	22
6	集約・再編パターンの検証	23
6-1	集約・再編パターンの整理	23
6-2	集約・再編パターンの検証	24
6-3	検証結果のまとめと評価	27
7	レジャープールのあり方方針	29
7-1	レジャープールの基本的な考え方	29
7-2	レジャープールの将来イメージ	30
8	今後のスケジュールと課題	31

1 検討の背景と目的

1-1 検討の背景と目的

(背景)

海なし県に位置する本市では、娯楽・レジャー目的で夏季のみ営業しているレジャープール※が5施設あり、夏の思い出づくりに欠かせない施設となっている。

一方、これら5施設は、1970年代から1980年代に整備し、現在に至っているものであり、必ずしも現在の本市における全体最適を考慮したものとはいえない。

また、沼影市民プールは義務教育学校の建設に伴って令和5年度末に廃止予定であるほか、下落合プールは中央区役所周辺の公共施設再編に合わせて、屋内プールのみが再整備され、屋外プールは廃止される予定となっている。

(目的)

上記のことから、将来的な設置意義を踏まえ、本市のレジャープールについて、中長期的な視点から今後のあり方を示すことを目的とする。

※ 本検討の対象としている「レジャープール」とは、スライダーや流れるプール、その他の水遊びができる施設を有するプールを指す。

1-2 上位・関連計画等

検討の背景に関連する市の上位・関連計画の概要を示す。

(1) 2030さいたま輝く未来と希望(ゆめ)のまちプラン(2022.3)

総合振興計画における将来人口見通しを示す。

- 将来人口見通しとして、総人口は2030年頃をピークに減少に転じる見込みである。
- 65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占める「超高齢社会」に突入している。
- 14歳以下の年少人口は減少する見込みとなっている。



図 1-1 本市の総人口の将来推計値

(2) さいたま市スポーツ施設の整備方針(2022. 3)

今後のスポーツ施設整備を計画的に進めていくための方針が示されており、「レジャー機能が併設された施設は、改廃について個別に検討が必要。」と基本方針が示されている。

表 1-1 さいたま市スポーツ施設の整備方針(レジャープール関係部分抜粋)

施設マネジメントの基本方針	■屋外プール(競泳用) <ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化施設が多いこと、健康志向を受けて通年型施設のニーズが高まり、屋外プール(競泳用)はスポーツ振興の観点からはニーズが低下している。 ● プール(競泳用)が主となっている施設については、屋内化を目指し、学校を含む周辺の公共施設との複合化等も検討する。 本検討の必要性 ● レジャー機能が併設された施設は、レジャーの側面からの市民ニーズや公園としての機能や役割を考慮して、改廃について個別に検討が必要となる。 		
	■屋外プール(競泳用)		
スポーツ施設の整備方針	施設規模等	現状の該当施設	方針
	50mと25mの公認で、数千席の観客席を持つ競泳用プール	該当施設なし	整備予定なし
	25mもしくは50mの公認で、観客席を持つ競泳用プール	沼影公園(50mプール) 大宮公園水泳場(県営)	社会情勢や財政的観点等を勘案した上で、今後のあり方を検討 県に対し、当面の維持を要望
	25m程度の競泳用プール	原山市民プールなど3施設、市立小中学校のプール	建替え等の際に 屋内化 、周辺公共施設との 複合化 等も検討

(3) 武蔵浦和駅周辺地区小・中学校 過大規模校・大規模校の解消について (2020. 12 都市経営戦略会議)

2020年12月の都市経営戦略会議において、「武蔵浦和駅周辺地区の過大規模校解消のために、沼影公園用地を活用して新設校を設置する」ことを決定している。

- 武蔵浦和駅周辺地区小・中学校の過大規模校及び大規模校の解消に向け、沼影公園用地に、新設校を設置する。
- 沼影小学校解体後の跡地利用として、体育館等のスポーツ施設を新設することを前提に検討を進める。
- 沼影公園解体後、現状と同規模の公園用地の代替地を確保する。



図 1-2 義務教育学校建設のスケジュールと計画概要

(4) 中央区役所周辺の公共施設再編方針（2022.3）

中央区役所周辺の公共施設の更新や機能の再編に際し、下落合プールが再編対象の公共施設に含まれ、他施設との複合化などが検討されている。

表 1-2 中央区役所周辺の公共施設再編方針(レジャープール関係部分抜粋)

<p>再編対象となる公共施設</p>	<p>与野本町駅周辺地区の中心拠点として、公共サービス提供の核、文化・交流機能を有する施設を対象としており、下落合プールも再編対象施設に含まれている。</p>	
<p>施設配置のイメージ(案)</p>	<p>新たな施設配置のイメージ(案)では、「公共エリア」に建設する複合施設の中で「プール」の整備が想定されている。</p>	

2 周辺自治体の動向

2-1 レジャープールの保有状況

(1) 周辺自治体におけるレジャープールの位置

図 2-1 では本市の中心から約 20km圏内におけるスライダープール、流水プール等を有する主要なレジャープールの位置を示す。

市の周辺には、レジャープールが7施設(公共6施設、民間1施設)存在している。

自治体名	プール施設の名称	プール種別		開設年度
		屋外 (夏季)	屋内 (通年)	
① 埼玉県	しらこぼと水上公園	●		1972(S47)
② 埼玉県	川越水上公園	●		1988(S63)
③ 朝霞市	溝沼子どもプール	●		1988(S63)
④ "	朝霞市健康増進センター (わくわくどーむ)		●	1994(H6)
⑤ 久喜市	市民プール※	●		1990(H2)
⑥ 北区	元気プラザ		●	1998(H10)



※久喜市民プールはR4年度より当面の間休止中

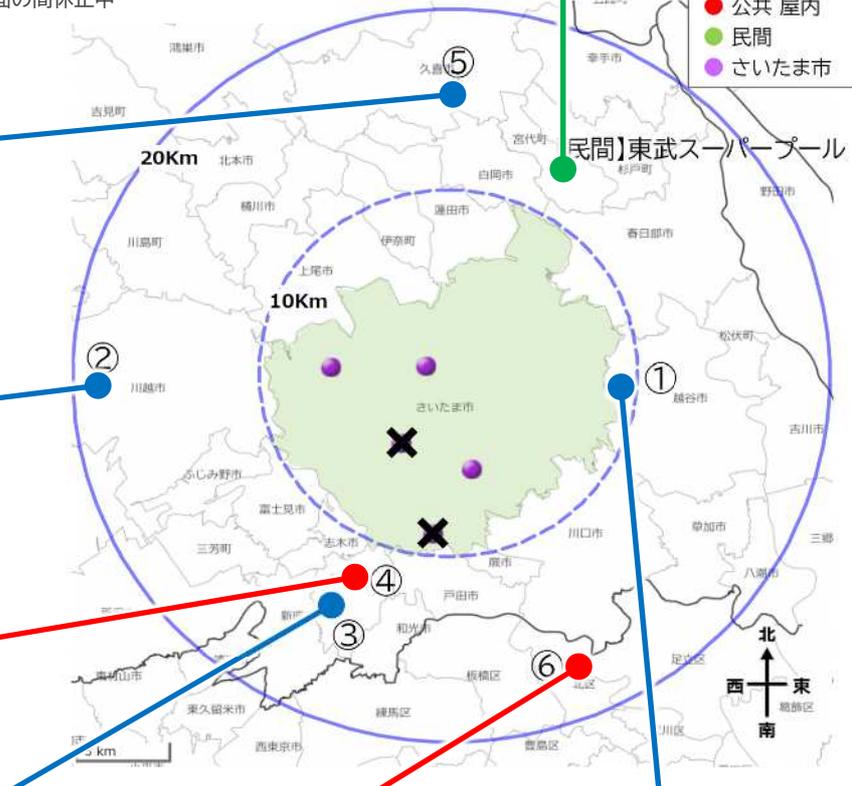


図 2-1 周辺自治体におけるレジャープールの位置

以降では、埼玉県内の自治体(市部のみ39自治体)及び首都圏の政令指定都市(千葉市、横浜市、川崎市、相模原市)を対象に、書面により実施したアンケート調査結果をもとにレジャープールの保有状況等の動向を示す。

(2) 自治体が保有しているレジャープールの種別

- 埼玉県内の自治体では、約26%(10自治体)が屋外のレジャープールを保有している。
- 屋内のレジャープールは約5%(2自治体)が保有している。
- 政令指定都市では4自治体全てで屋外のレジャープールを保有している。
- 屋内のレジャープールは、3自治体で保有している。

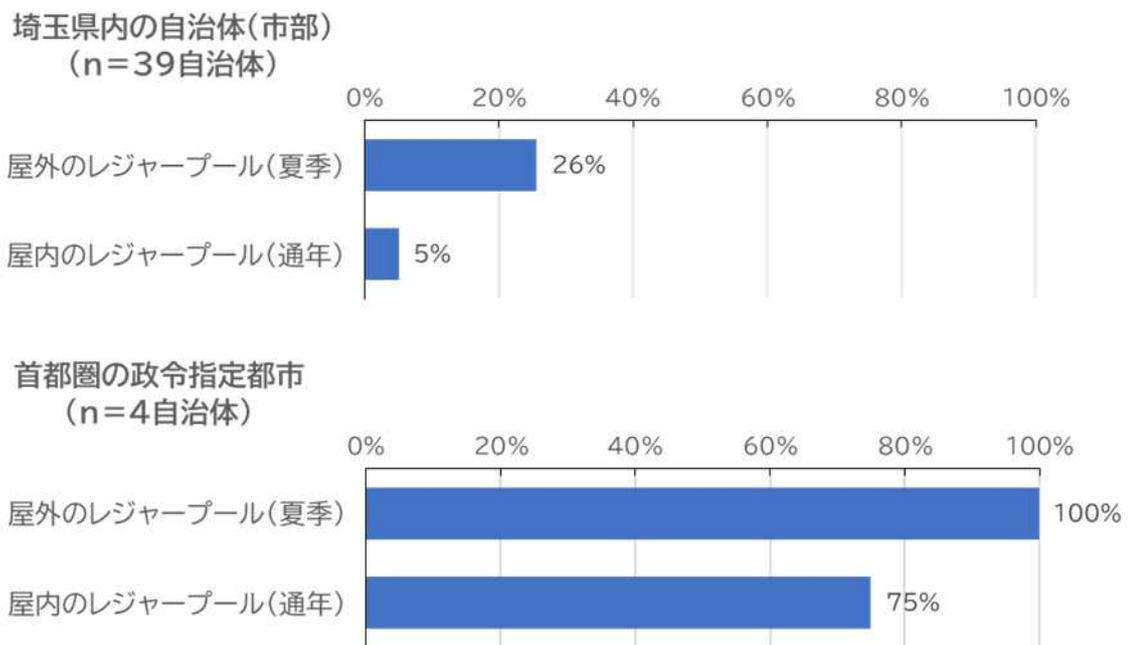
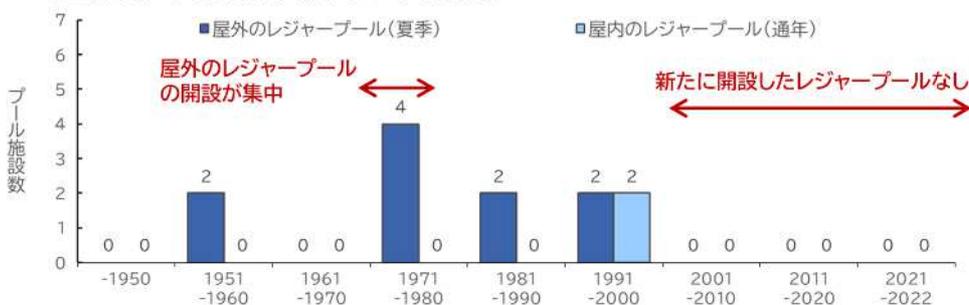


図 2-2 自治体が保有しているレジャープールの種別

(3) 開設年度別の施設数の推移

- 屋外のレジャープールについて、県内自治体では 1970 年代に、政令指定都市は 1960～1970 年代に開設時期が集中している。
- 2000 年代以降に開設したレジャープールは1施設のみである。

■ 埼玉県内の自治体(市部)【39自治体】



■ 首都圏の政令指定都市【4自治体】



図 2-3 開設年度別の施設数の推移

(4) 過去10年以内に廃止されたレジャープール(埼玉県内)

- 過去10年、埼玉県内では 10施設のレジャープールが廃止されている。これら全施設が廃止理由の一つに、「老朽化の進行」をあげている。
- 廃止年度は、10 施設のうち 7 施設が 2020 年度以降に集中している。コロナ禍での長期間の休園が施設の劣化を加速化させ、安全管理上、廃止もやむを得ないと判断されたものと推測される。

表 2-1 過去10年以内に廃止されたレジャープール(埼玉県内)

自治体名	プール施設の名称	廃止年度	廃止の主たる理由(複数回答)				
			老朽化の進行	財政状況の悪化	利用者数の減少	安全管理上の都合	その他
春日部市	市民プール	2013	●		●	●	
狭山市	南入曽公園プール	2013	●				
新座市	片山ファミリープール	2017	●				
川口市	流水プール場	2021	●		●		駐車場拡大
加須市	加須市民運動公園親子プール	2021	●			●	
新座市	大和田ファミリープール	2021	●				
富士見市	富士見ガーデンビーチ	2021	●				
吉川市	吉川市市民プール	2021	●		●	●	
埼玉県	さいたま水上公園	2021	●				
熊谷市	熊谷さくら運動公園	2022	●			●	

(5) レジャープールの利用料金の比較

- 他自治体のレジャープールでは、大人1回あたり 300 円～500 円程度であった。
- 本市のレジャープールの料金は、他自治体と比べても高すぎず、安すぎず、同程度といえる。

表 2-2 さいたま市及び県内自治体のレジャープールの利用料金(主な料金区分のみ抜粋)

自治体名	プール施設の名称	市民		市外	
		大人	小学生・子ども	大人	小学生・子ども
さいたま市	大和田公園プール	440円/1回	220円/1回	880円/1回	440円/1回
〃	原山市民プール	440円/1回	220円/1回	880円/1回	440円/1回
〃	沼影市民プール(屋外)	440円/1回	220円/1回	880円/1回	440円/1回
〃	三橋プール	230円/1回	110円/1回	(市内・市外同一料金)	
〃	下落合プール(屋外)	320円/1回	110円/1回	(市内・市外同一料金)	
川越市	初雁公園プール	200円/2時間	50円/2時間	400円/2時間	100円/2時間
行田市	行田市民プール(屋外)	150円/1時間	70円/1時間	230円/1時間	110円/1時間
秩父市	秩父ミュージックパーク スポーツの森プール	900円/1回	400円	1,800円/1回	800円
所沢市	北野公園水泳プール	480円/1回	160円/1回	(市内・市外同一料金)	
狭山市	狭山台プール	300円/1回	100円/1回	(市内・市外同一料金)	
深谷市	深谷グリーンパーク パティオ	800円/1回	400円/1回	2,000円/3時間	1,000円/3時間
朝霞市	朝霞市健康増進センター (わくわくどーむ)	400円/2時間 (超過200円/時)	200円/2時間 (超過100円/時)	800円/2時間 (超過400円/時)	400円/2時間 (超過200円/時)
久喜市	市民プール	500円/1回	200円/1回	(市内・市外同一料金)	
三郷市	早稲田公園プール	300円/1回	100円/1回	600円/1回	200円/1回
坂戸市	坂戸市民プール	500円/1回	200円/1回	1,000円/1回	400円/1回
日高市	市民プール	300円/1回	100円/1回	(市内・市外同一料金)	
埼玉県	川越水上公園	730円/1回	210円/1回	(市内・市外同一料金)	
埼玉県	しらこぼと水上公園	730円/1回	210円/1回	(市内・市外同一料金)	

2-2 レジャープール等の再整備の状況・事例

周辺自治体において近年再整備に取り組んでいるレジャープール等の概要を示す。

(1) 国営昭和記念公園(レインボープール)【立川市・昭島市】

(公園事務所ヒアリングより)

- 2020 年はコロナウイルス拡大のため営業を休止し、2021 年は開園しようとしたがプールシステムの循環ポンプが故障したため再び営業を休止した。そして、改修費用が想定以上の高額となることが判明し、改修ではなく、再整備の検討を優先することとし、2022 年も営業を休止している。
- 「水のゾーン」の再整備は公民連携で行う。事業者に提案を求める機能として、水あそび広場のような親水機能は必須だが、レジャープール機能は必須ではないとしている。
- 事業収支を合わせる必要があるため、親水機能以上の機能は民間提案に委ねていく。



図 2-4 国営昭和記念公園ゾーニングとプール・水遊び場

(2) わくわくどーむ【朝霞市】

健康維持・増進と体力づくりを目的に、4 種類の温水プール(25mプール、流水プール等)、リフレッシュルーム(大浴場、サウナ等)、トレーニングルームを完備している。

コロナ禍以前は、年間約 15 万人が利用している。



(3) いろは親水公園【志木市】

公共プールを保有していない志木市において、都市公園法の公募設置管理制度(Park-PFI)により事業者を公募し、親水公園(じゃぶじゃぶ池)を整備している。



3 現状

3-1 市内のレジャープールの保有状況

表 3-1 は本市が保有する公共プールの概要を整理したものである。夏季に営業しているレジャープールは点線で示す5施設である。

表 3-1 本市が保有する公共プールの概要

所管課	プール名称	所在地	開設年 (経過年)	プール部分 敷地面積 (m)	プール種別		主な利用用途(◎:主用途)			施設機能
					屋内 (通年)	屋外 (夏季)	娯楽 レジャー	健康増進、 医療、福祉	競技、 トレーニング	
都市公園課	大和田公園 プール	大宮区	1984 (38年)	29,809		●	◎	○	○	流水プール、造波プール、幼児プール、 スライダー、50m競泳プール、噴水広場
	沼影市民 プール	南区	1971 (51年)	20,071	●		◎	○	○	流水プール、スライダー、子供プール、幼 児プール、50m競泳プール(公認)
	原山市民 プール	緑区	1979 (43年)	7,917		●	◎	○		流水プール、スライダー、幼児プール、子 供プール、25mプール
	三橋プール	西区	1982 (40年)	4,945		●	◎			流水プール、幼児プール
	下落合 プール	中央区	1972 (50年)	6,662	●		◎			幼児プール、50mプール、飛込プール 25mプール
	三橋総合公園 プール	西区	1993 (29年)	6,600	●			◎		25mプール(屋根開閉式)
	岩槻温水 プール	岩槻区	1990 (39年)	2,273	●			◎		幼児プール、25mプール
スポーツ振興課	サイデン化学 アリーナ	桜区	2003 (19年)	13,895 (建築面積)	●			◎	○	25mプール
市民生活安全課	見沼ヘルシー ランド	緑区	1987 (35年)	7,320	●			◎		幼児プール、25mプール
高齢福祉課	健康福祉センター 西楽園	西区	1996 (26年)	2,662 (建築面積)	●			◎		幼児プール、25mプール



図 3-1 本市が保有するレジャープールの位置図

3-2 利用状況、収支状況

(1) 利用者数の推移

レジャープールの利用者は、コロナ禍前の 2019 年度まで、猛暑による変動はあるものの横這い或いは緩やかな減少傾向にある。

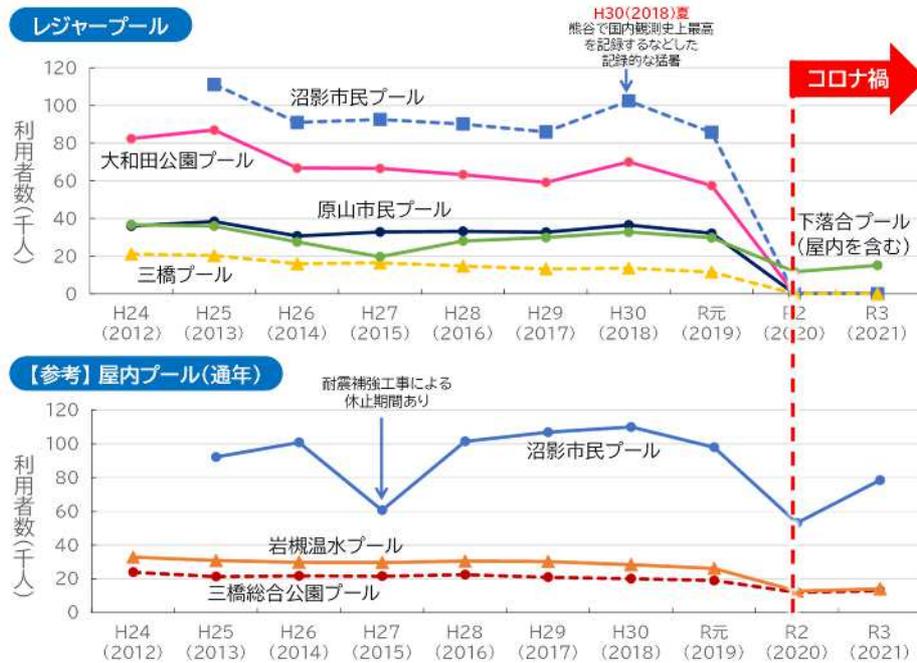


図 3-2 利用者数の推移

(2) 利用料収入の推移

レジャープールの利用料収入は、コロナ禍前の 2019 年度まで、猛暑による変動はあるものの横這い或いは緩やかな減少傾向にある。

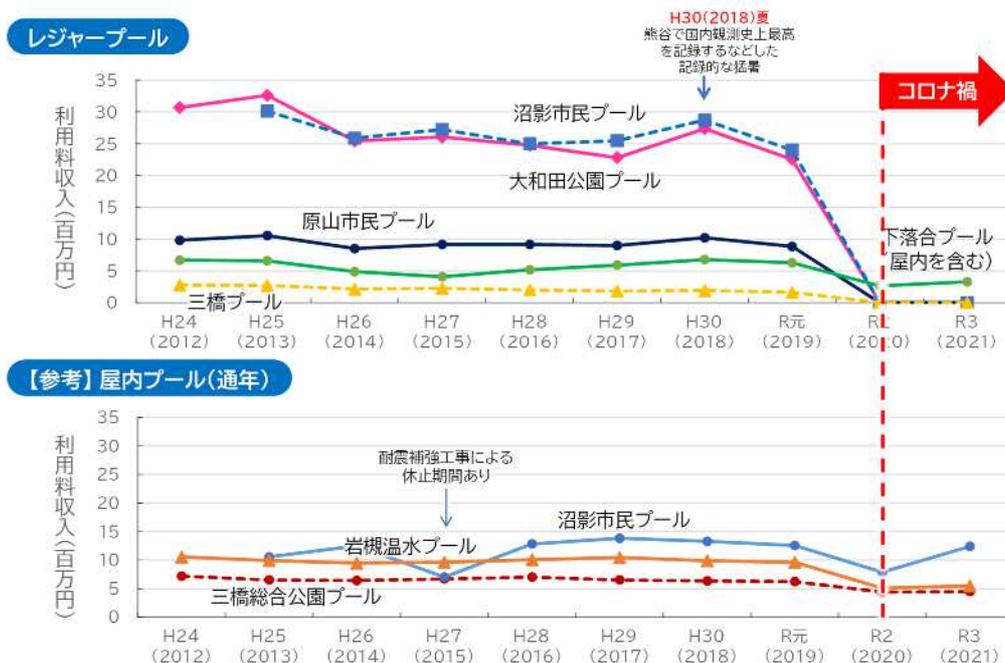


図 3-3 利用料収入の推移

(3) 維持管理に伴う支出の推移

コロナ禍前の光熱水費や人件費等の維持管理費は、一番少ない三橋プールで年間2,000万円以上、総合的な施設が揃う大和田公園プールは年間8,000万円以上かかっている。

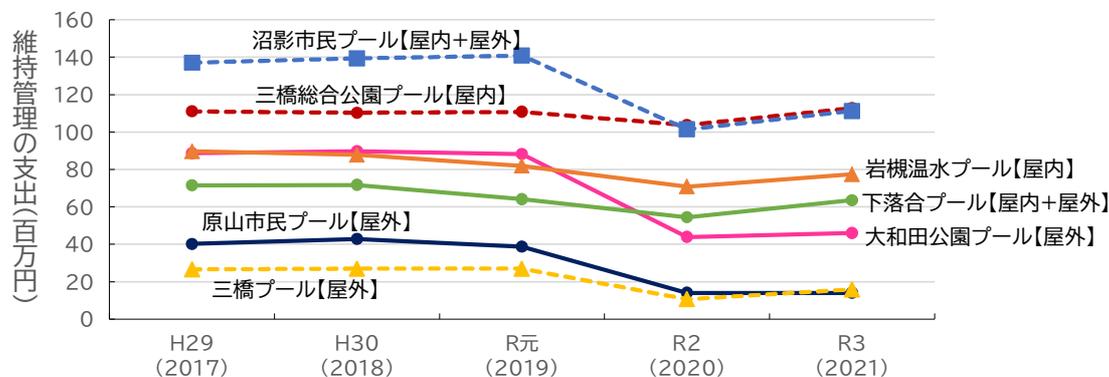


図 3-4 維持管理に伴う支出の推移

(4) 修繕・改修工事費の推移

年々増加傾向にあり、コロナ禍で休園していた2020年度から2021年度は大きく支出が増えている。特に沼影市民プールの支出が突出している。

長期間の営業休止中にしかできない修繕を実施したことや、長期間の営業休止によって設備の劣化が進んだことにより、修繕や改修費用の増大を招いている。

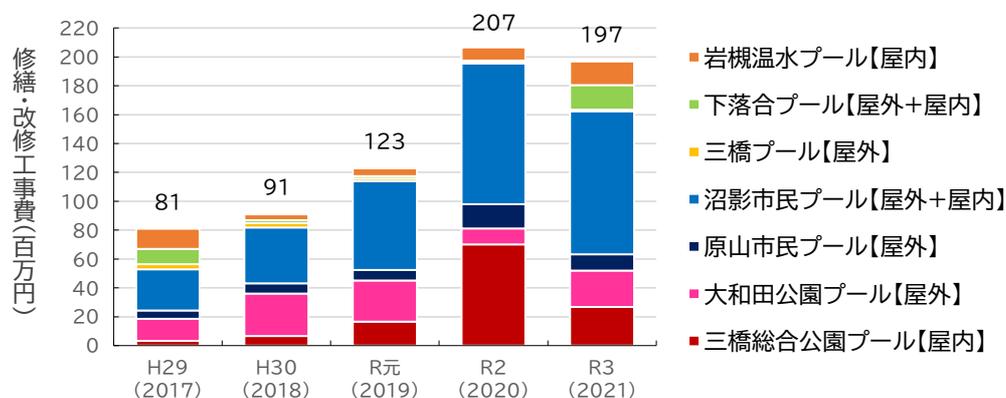


図 3-5 修繕・改修工事費の推移

(5) レジャープールの収支状況のまとめ

年間の収支は、支出が収入を大幅に超過している。

レジャープール 5 施設の合計は、5 年間の平均で、収入が約 5,400 万円、支出が約 4 億 1,900 万円であり、収支は年間約 3 億 6,500 万円の支出超過(マイナス)である。



図 3-6 レジャープールの収支状況のまとめ

3-3 市民の意向

市民の目線から見たプール施設に対する意向や要望を把握するため、モニター登録をしている市内在住の20～70代の男女を対象にWEB アンケート調査を実施し、年代別、男女別、居住区のバランスを考慮して1,481人より回答を得た。(調査期間 令和4年10月28日～11月14日)

なお、この調査では、レジャープールだけではなく、健康増進などを目的とするプールも対象としているため、「公共プール」と記載している。

表 3-2 回答数 単位:人

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	129	117	120	123	126	122	737
女性	120	122	121	130	164	87	744
合計	249	239	241	253	290	209	1,481



図 3-7 回答者の居住区別割合

(1) 公共プールの利用意向

設問文	あなたは過去5年くらいの間に、「公共プール」を利用しましたか。あるいは利用したいと思いますか。
選択肢	①公共プールを利用したことがある。または利用したいと思っている。 ②公共プールを利用していない。利用したいと思わない。または、民間プール施設を利用している ③その他

「公共プールを利用したことがある、利用したいと思っている」と回答した人は全体の約40%であった。

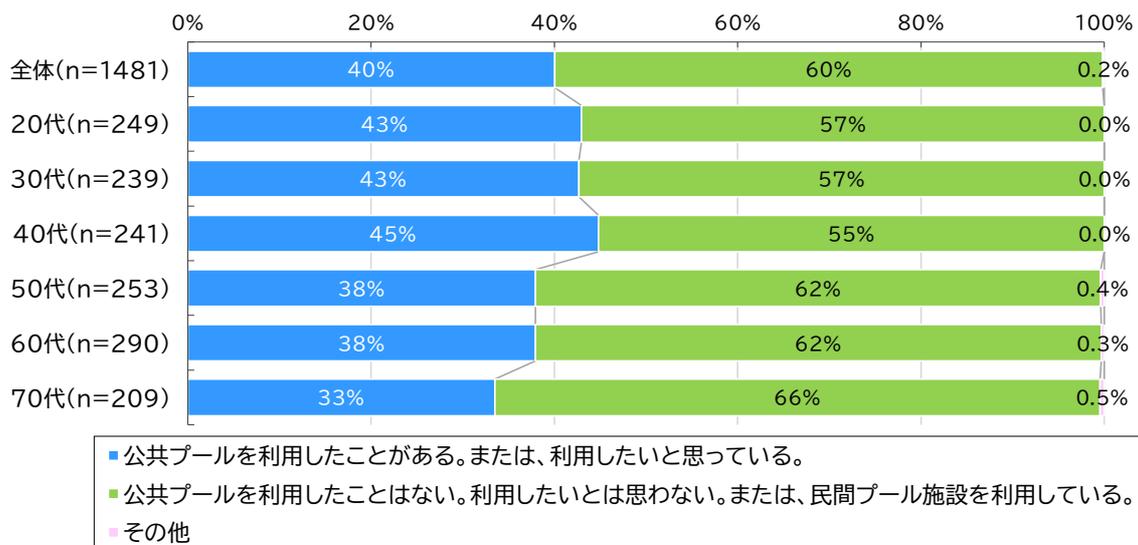


図 3-8 公共プールの利用意向

(2) 公共プールを選ぶ際に重視する条件

設問文	あなたが公共プールを選ぶ際の条件、公共プールに求める条件として、特に重視している順に3つを選びお答えください。
選択肢	①料金(民間プールよりも安く利用できる、できるだけ安く遊べる 等) ②身近さ(徒歩や自転車で行ける場所にある 等) ③アクセス性(自動車や公共交通機関等でアクセスしやすい、駐車場が広い 等) ④きれいさ・清潔さ(更衣室・トイレ等の建物やプールが清潔・安全である 等) ⑤利用しやすさ(一年を通じて利用できる、早朝・夜間も利用できる 等) ⑥快適さ(暑さ寒さ・天候を気にせず利用できる、日焼けを気にせず利用できる 等) ⑦プール以外の魅力(売店や飲食店が充実、トレーニングジムやサウナなどが充実 等) ⑧その他

公共プールを選ぶ際の条件として、「料金」を最も重視しており、次いで「身近さ」、「アクセス性」などの立地条件となっている。

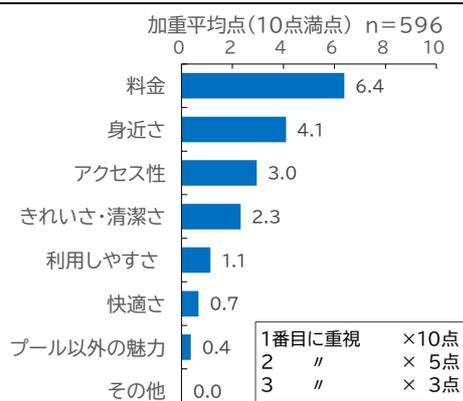


図 3-9 公共プールを選ぶ際に重視する条件

(3) 屋外の公共プールの整備に対する意向

設問文	公共プールのうち、主にレジャー目的で夏季に開設している屋外プールは市内に5施設あり、多くの市民の皆様にご利用されてきました。しかし、老朽化が進み、維持管理費が年々増加する傾向にあります(令和3年度の屋外プールの維持管理費は5施設合計で約2億5千万円)。市の財政状況も厳しさを増しており、今後の方向性を検討しているところです。そこで、屋外プールについて、あなたのお考えに近いものを1つ選んでお答えください。
選択肢	①屋外プールはなるべく残して欲しい。 ②レジャープールや競泳プールのある総合的な屋外プールが市内に1つか2つあればよい ③屋外プールは必ずしも市内になくてもよい ④その他

屋外プールについて、「なるべく残して欲しい」が最も多く40%であったのに対し、「市内に1つか2つあればよい」、「必ずしも市内になくてもよい」という集約・再編の意向の回答が合わせて約52%であった。



図 3-10 屋外の公共プールの整備に対する意向

(4) 水遊び場(じゃぶじゃぶ池等)の整備に対する意向

設問文	<p>小さな子どもが遊べる水遊び場(じゃぶじゃぶ池、噴水広場、親水公園など)は、都市や公園内に潤いをもたらす憩いの空間であり、公共プールほどの費用を投じずに整備可能な、親子で気軽に水と親しむことができる空間です。</p> <p>こうした水遊び場の整備について、あなたのお考えに近いものを1つ選んでお答えください。また、その理由を簡潔にお書きください。</p>
選択肢	<p>①どちらかという、公共プールよりも、水遊び場を優先して整備して欲しい</p> <p>②どちらかという、水遊び場よりも、公共プールを優先して整備して欲しい</p> <p>③公共プールも水遊び場もどちらも整備して欲しい</p> <p>④公共プールも水遊び場も特に整備は望まない</p> <p>⑤その他</p>

「公共プールも水遊び場もどちらも整備」、「どちらかという、公共プールよりも水遊び場を優先して整備」を合わせて約 64%が「水遊び場」の整備について肯定的な意向を示している。

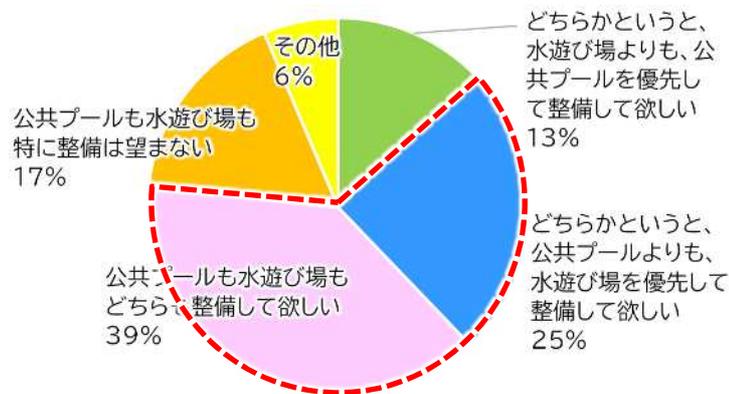


図 3-11 水遊び場(じゃぶじゃぶ池等)の整備に対する意向

(5) 居住区ごとのプール利用特性

設問文	(1)で「公共プールを利用したことがある。または利用したいと思っている。」と答えた方にお聞きします。あなたが主に利用するプールはどこですか。複数ある場合は、2つを上限として選択してください。
選択肢	①三橋プール ②大和田公園プール ③沼影市民プール ④原山市民プール ⑤下落合プール ⑥三橋総合公園プール ⑦岩槻温水プール ⑧サイデン化学アリーナ(さいたま市記念総合体育館)プール ⑨見沼ヘルシーランド ⑩健康福祉センター西楽園

居住区ごとに、どのプールを利用したことがあるのかを集計したところ、エリアごとで利用するプールが異なっており、北部エリアでは大和田公園プールが、南部エリアでは沼影市民プールと原山市民プールがバランスよく利用されている状況となっている。

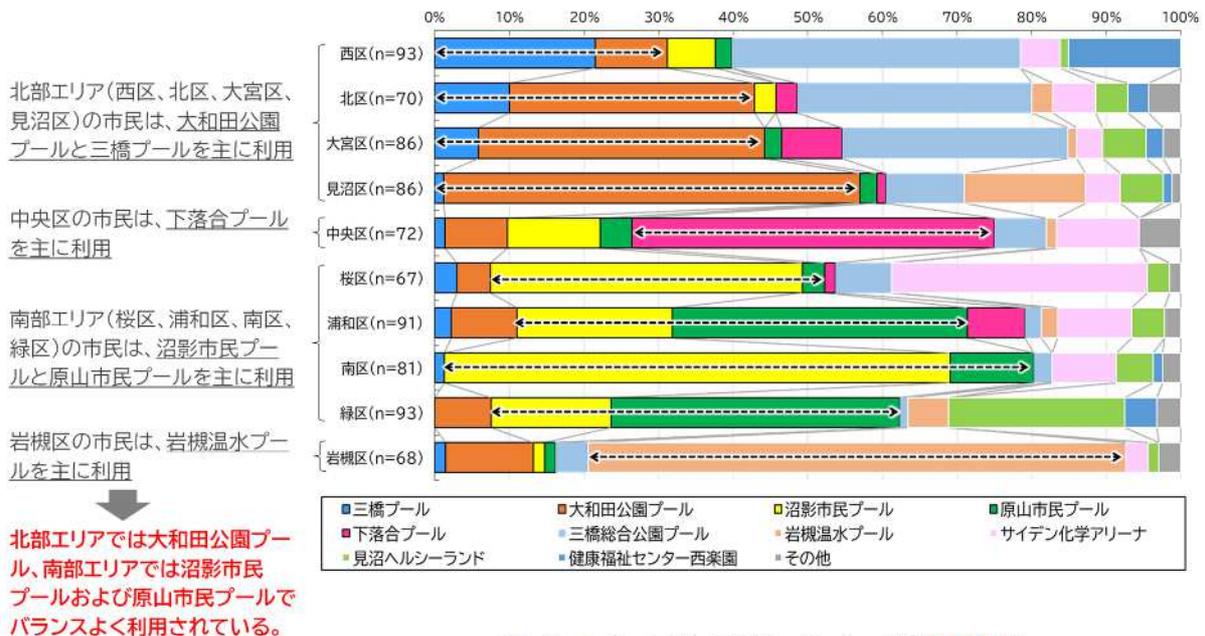


図 3-12 居住区ごとのプール利用特性

4 課題

(1) 収支状況等に関すること

1) 現状のまとめ

- 現在ある5施設はいずれも1970年代から1980年代に建設されたものである。
- 利用料収入が横ばいあるいは緩やかな減少傾向にある。
- 総合的な施設が揃う大和田公園プールでは、年間 8,000 万円以上の維持管理費がかかっている。
- 現在の5施設の収支は、年間約3億 6,500万円の支出超過となっている。
- 市民が公共プールを選ぶ条件として、「料金」を最も重視している。

2) 現状を踏まえた課題

レジャープール5施設はいずれも老朽化が進んでおり、今後さらに維持管理・修繕改修工事費がかかることが予想される。

一方、利用料収入は今後減少することが考えられる。

⇒ 中長期的な視点から、**財政負担の軽減**を図る必要がある。

(2) 利用状況等に関すること

1) 現状のまとめ

- 現在の5施設は、旧市から引き継いでおり、全体最適を考慮したものではない。
- 5施設のうち、沼影市民プールおよび下落合プールは、廃止・解体の予定である。
- 利用者数は横ばいあるいは緩やかな減少傾向にある。
- 市民が公共プールを選ぶ条件は、「料金」の次に身近さ、アクセス性などの「立地条件」を重視している。
- 現在は、北部エリアでは大和田公園プール、南部エリアでは原山市民プールと沼影市民プールがバランスよく利用されている。

2) 現状を踏まえた課題

沼影市民プールと下落合プールが廃止・解体となることから、南部エリアでは需要の不均衡が生じる恐れがある。

また、北部エリアに偏った配置となる。

⇒ 今後利用者が減少することを見据え、集約・再編などにより、**地域バランスを考慮した配置の検討**が必要である。

5 課題解決の方向性

5-1 財政負担の軽減

(1) 財政負担の軽減

課題解決に向け、財政負担の軽減に関する方向性を以下に示す。

【現状】

- 現在は年間約 3 億 6,500 万円の支出超過である。
- 現在のレジャープール5施設を、今後も新設やリニューアルをしながら維持する場合、2050年までの28年間で、支出が約150億円、収入が約15億円という試算結果になる。(約135億円の支出超過/年間約4.8億円 ※)

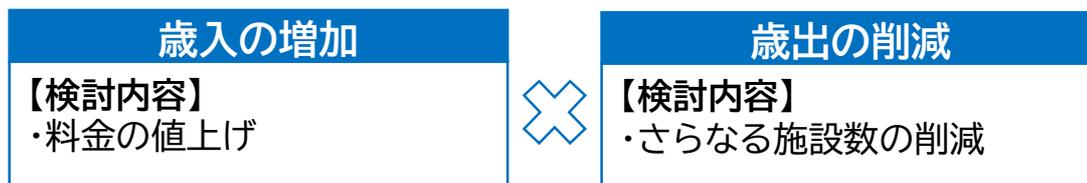


【問題】

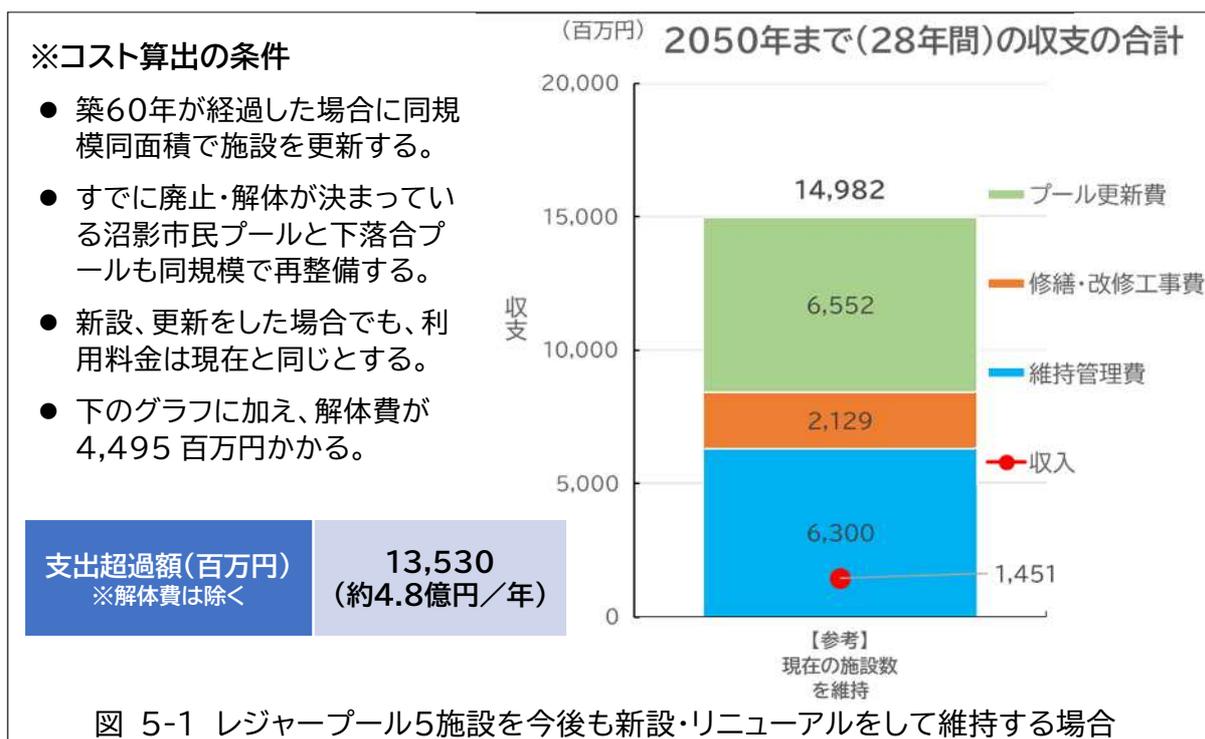
- このまま現在の 5 施設を維持するには、財政負担が大きい。



【課題解決の方向性】



※併せて、公園管理の財政負担軽減と魅力向上を図るため、公民連携事業の導入も検討



(2) 利用料金の値上げ

歳入を増やす取組として、利用料金の値上げについて方向性を以下に示す。

- 利用者数がコロナ禍前と変わらないと仮定し、受益者負担割合を 30%および50%とした場合の一人当たり負担増加額を試算した結果を以下に示す。

- ・受益者負担割合 30%:**340 円の値上げ**が必要
- ・受益者負担割合50%:**720円の値上げ**が必要

表 5-1 受益者負担割合の見直しによる一人当たり負担増価額の試算

	現状	受益者負担割合の見直し		備考
		30%	50%	
a 受益者負担割合	13%	30%	50%	= $(c+d)/b$
b 支出 (百万円)	419	419	419	5年間(H29-R3)平均
c 現在の料金設定による収入(百万円)	54	54	54	5年間(H29-R3)平均
d 値上げによる収入増(百万円)	-	72	156	= $a*b-c$
e 利用者数 (千人)	217	217	217	令和元年度 実績値
f 1人当たり負担増加額 ^{※1} (円/人)	0	340	720	= $(d*10^6)/(e*10^3)$

※1 実際には施設ごとに料金が異なるが、現在の料金設定額に関わらず、一律に負担すると仮定

- プールのリニューアルや公民連携手法の導入等で、施設の魅力度が向上する際に、利用料金の値上げを行うことを前提とすると、他市事例も踏まえ、利用料金 1,000 円以上の設定は妥当と考えられる。

表 5-2 【参考】 県内及び関東の総合型レジャープール(屋外)の料金

区分	プール施設	所在地	大人(円)
公共	しらこぼと水上公園	埼玉県越谷市	730
	井頭公園一万人プール	栃木県真岡市	1,300
	稲毛海浜公園プール	千葉県千葉市	1,600
民間	東武スーパープール	埼玉県白岡市	1,300
	西武園ゆうえんちプール	埼玉県所沢市	2,900
	東京サマーランド	東京都あきる野市	4,200
	よみうりランド プールWAI	東京都稲城市	3,300

【課題解決の方向性】

あくまで試算として、新設・更新の際に**受益者負担割合 50%での値上げ**で検討する。

表 5-3 利用料金見直し後の各施設の利用料金

プールの名称	利用者数(人) (R元年度実績)	現在の大人の 利用料金	受益者負担割合50% による大人の利用料金
大和田公園プール	57,409	440円/回	1,160円/回
沼影市民プール	85,639	440円/回	1,160円/回
原山市民プール	32,102	440円/回	1,160円/回
三橋プール	11,523	230円/回	950円/回
下落合プール	29,772	320円/回	1,040円/回

5-2 地域バランスを考慮した配慮の検討

(1) アクセス性を踏まえた地域バランスの検証

歳出削減のため集約再編を行うにあたり、地域バランスを考慮して配置を検討した。

まず、広域利用が可能なプールかどうかを判断するため、アクセス性を踏まえた地域バランスについて検証を行った。

- 北部エリアでは、大和田公園プールから自動車で 20 分以内の範囲で、概ね北部4区（西区、北区、大宮区、見沼区）をカバーしている。
- 南部エリアでは、沼影市民プールから自動車で 20 分以内の範囲で、概ね南部4区（中央区、桜区、浦和区、南区）をカバーしている。
- なお、東部エリアは、越谷市との市境に立地する県営しらこぼと水上公園があり、概ね岩槻区と緑区をカバーしている。

※ 三橋プール、原山市民プールは駐車場がほとんどなく、広域利用が見込めないと判断し、検証の対象外とした。



【課題解決の方向性】

- 北部エリアでは、大和田公園プールがあれば広域からの利用が可能である。
- 南部エリアは、沼影市民プールが廃止されるため、今の原山市民プールでは駐車場がなく、カバーできず、広域利用が見込めない。そのため、沼影市民プールの代替プールの新設、または原山市民プールのリニューアルが必要といえる。

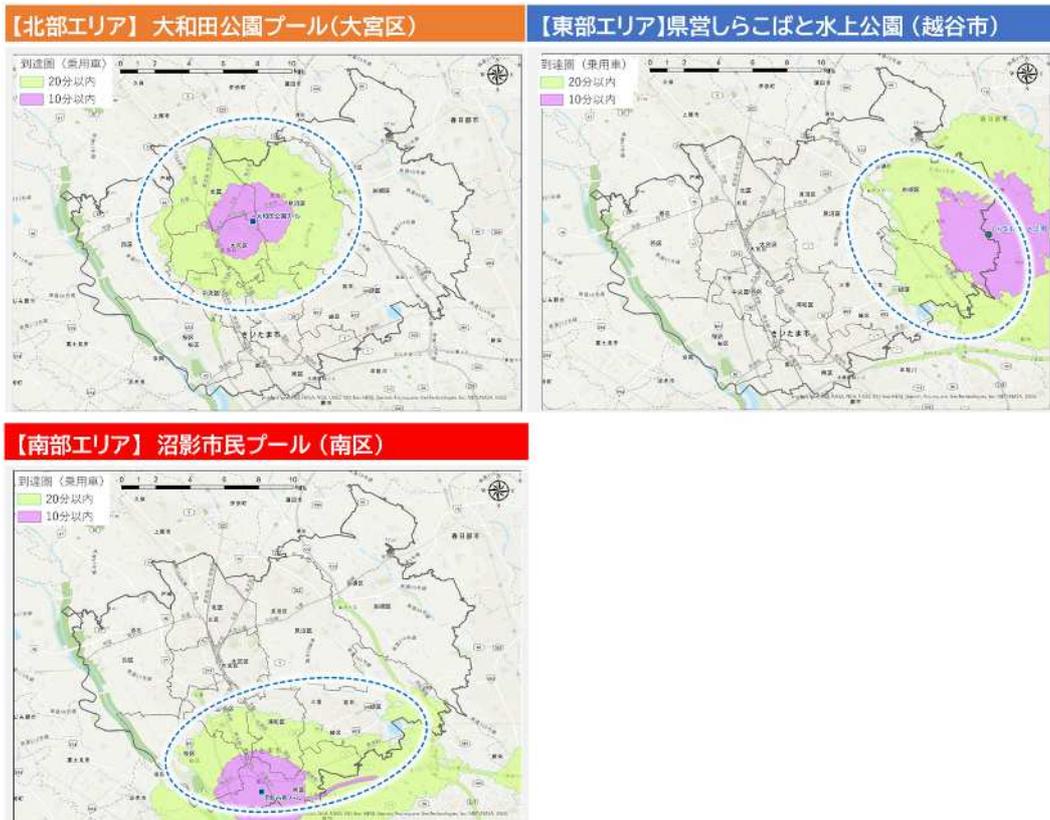


図 5-2 プールを起点とした自動車による時間到達圏
(自動車の到達時間をGISにより分析して図化)

(2) 利用者数を踏まえた地域バランスの検証

次いで、アクセス性に加えて、利用者数を踏まえた地域バランスを検証した。

図 5-3 は、沼影市民プールと下落合プールが廃止となった場合のプールの位置図を示している。北部エリアでは大和田公園プールで広域利用が見込める一方、南部エリアでは広域利用が見込めるプールがないことが分かる。

- 広域からの利用が見込めるプール
- 駐車場がほとんどなく、地域利用が主なプール



図 5-3 沼影市民プール・下落合プール廃止後の位置図

今後、令和 27 年度までに年少人口が約 11%減少するという推計を踏まえ、利用者数も 11%減少すると仮定し、将来の利用者数を残された3つのプールで収容できるか検証した。

表 5-4 各プールの令和27年度の利用者数と収容の可能性



図 5-4 年少人口の推移
※社人研から発表された推計値から算出

	H27-R1の年間 最多利用者数	H27-R1の 平均利用者数	補正 -11%	R27利用者数 (推計値)	収容 可能
大和田公園 プール	70,001	63,276	×0.89	56,315	← 収容可能 → 収容不可
沼影市民 プール	102,365	91,300		81,257	
原山市民 プール	36,487	33,462		29,781	
三橋プール	16,381	13,884		12,357	
下落合プール 【屋内含む】	32,769	28,026		24,943	

北部 エリア	○	三橋プール利用者を大和田公園プールに収容できる。	大和田公園プールの年間最多利用者数 > 大和田公園プールの R27利用者数 + 三橋プールの R27利用者数 70,001人 > 56,315人 + 12,357人
南部 エリア	×	沼影市民プール利用者を原山市民プールに収容することは難しい。	原山市民プールの年間最多利用者数 < 沼影市民プールの R27利用者数 + 原山市民プールの R27利用者数 36,487人 < 81,257人 + 29,781人

【課題解決の方向性】

今の原山市民プールのままでは、利用者を収容することが難しいため、南部エリア内において、**プールの新設またはリニューアルが必要**と言える。

5-3 まとめ

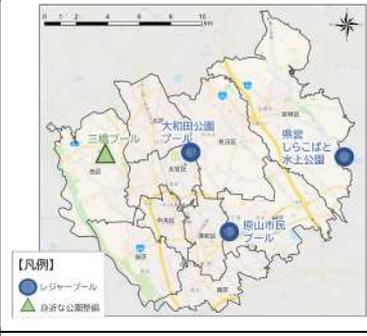
ここまでの結果を踏まえると、北部エリアでは、大和田公園プールで広域利用が可能である一方、南部エリアでは広域利用が出来るプールが残らないことから、南部エリアの広域利用を今後想定するかどうかポイントになる。

南部エリアの広域利用を今後も想定する場合、沼影市民プールの代替により広域利用が出来る施設を新設する【パターン1】と、原山市民プールのリニューアルにより可能な限り広域利用が出来る施設にリニューアルする【パターン2】の、2パターンが考えられる。

なお、パターン1とパターン2で廃止となるプールの跡地については、市民ニーズ等を考慮し、親水機能を有した身近な公園を整備する想定としている。

一方、南部エリアの広域利用は今後想定しない場合、保有量を最小化し、大和田公園プールだけで対応する【パターン3】が考えられる。

表 5-5 集約・再編パターン

区分	集約再編パターン	位置図
南部エリアの広域利用を今後も想定する場合	【パターン1】 沼影市民プールの代替により、広域利用が出来る施設を新設	 <ul style="list-style-type: none"> ・大和田公園プール ・沼影市民プール代替プール新設 ・公園整備(原山・三橋)
	【パターン2】 原山市民プールを可能な限り広域利用が出来る施設にリニューアル	 <ul style="list-style-type: none"> ・大和田公園プール ・原山市民プールのリニューアル ・公園整備(三橋)
南部エリアの広域利用は今後想定しない場合	【パターン3】 保有量を最小化し、大和田公園プールのみで対応	 <ul style="list-style-type: none"> ・大和田公園プールのみ (保有量最小化)

次章において、この3つのパターンそれぞれのコスト算出を行い、今後のあり方として最適なパターンを検証する。

6 集約・再編パターンの検証

6-1 集約・再編パターンの整理

表 6-1 では、前章で整理した集約・再編パターンを施設ごとに整理したものである。

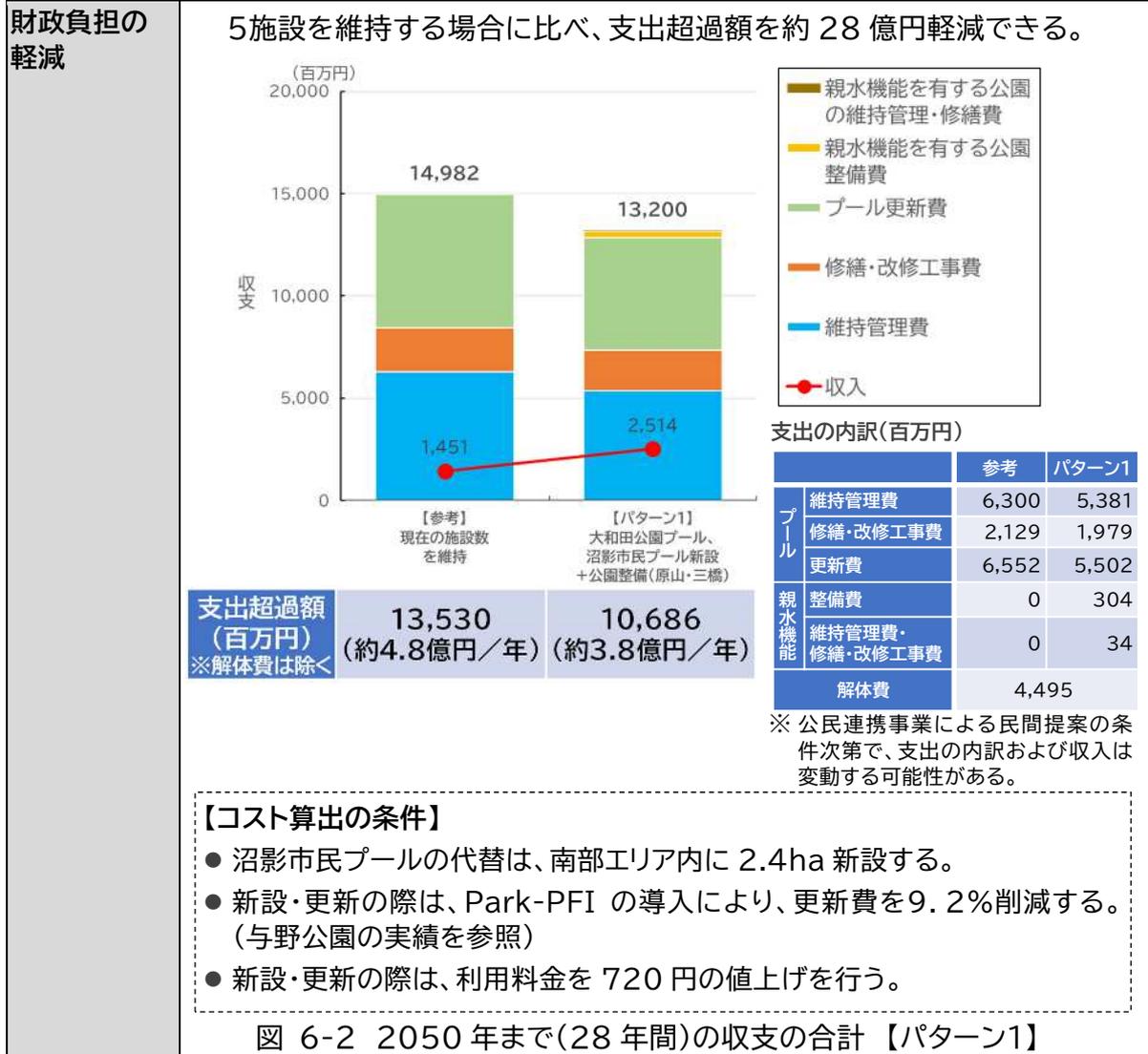
現在の5施設を新設・更新しながら残すという案を【参考】とし、各パターンと地域バランス・財政負担軽減について比較することで評価を行う。

表 6-1 集約・再編パターン

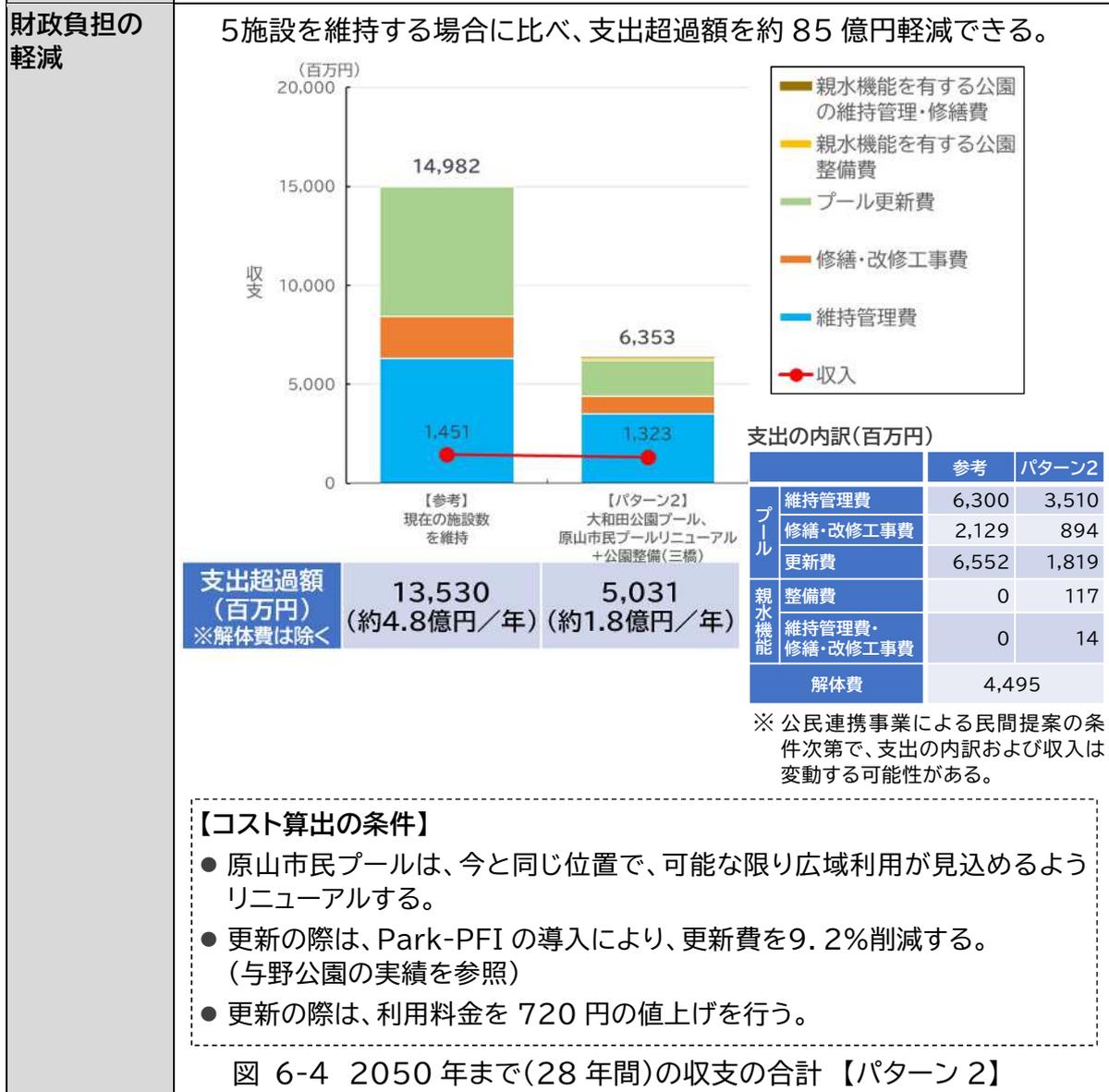
集約・再編パターン	【参考】	【パターン1】	【パターン2】	【パターン3】
	現在の施設数を維持	大和田公園プール 沼影市民プール代替プール新設 公園整備(原山・三橋)	大和田公園プール 原山市民プールのリニューアル 公園整備(三橋)	保有量最小化 (大和田公園プールのみ)
前提条件	耐用年数(築60年)までは現在の施設を使用することとし、耐用年数到達後は、更新または解体を行う。			
将来の状況	5施設を維持	5施設から 2施設に集約	5施設から 2施設に集約	5施設から 1施設に集約
大和田公園プール	同規模で 単純更新	公民連携によるリニューアル 利用料金の増額		
沼影市民プール	代替地に 同規模で再整備	公民連携により 代替地に新設 利用料金の増額	×R6年度以降に解体 (施設廃止)	
屋内プール	新たに建設するスポーツ施設内に再整備			
原山市民プール	同規模で 単純更新	プールを解体し、公民 連携により親水機能を 有した公園を整備	公民連携による リニューアル 利用料金の増額	×解体 (施設廃止)
三橋プール	同規模で 単純更新	プールを解体し、公民連携により 親水機能を有した公園を整備		×解体 (施設廃止)
下落合プール	同規模で 再整備	×中央区役所周辺の再編に合わせ、解体 (施設廃止)		
屋内プール	中央区役所周辺の再編に合わせ、解体後、複合施設に同規模で再整備			

6-2 集約・再編パターンの検証

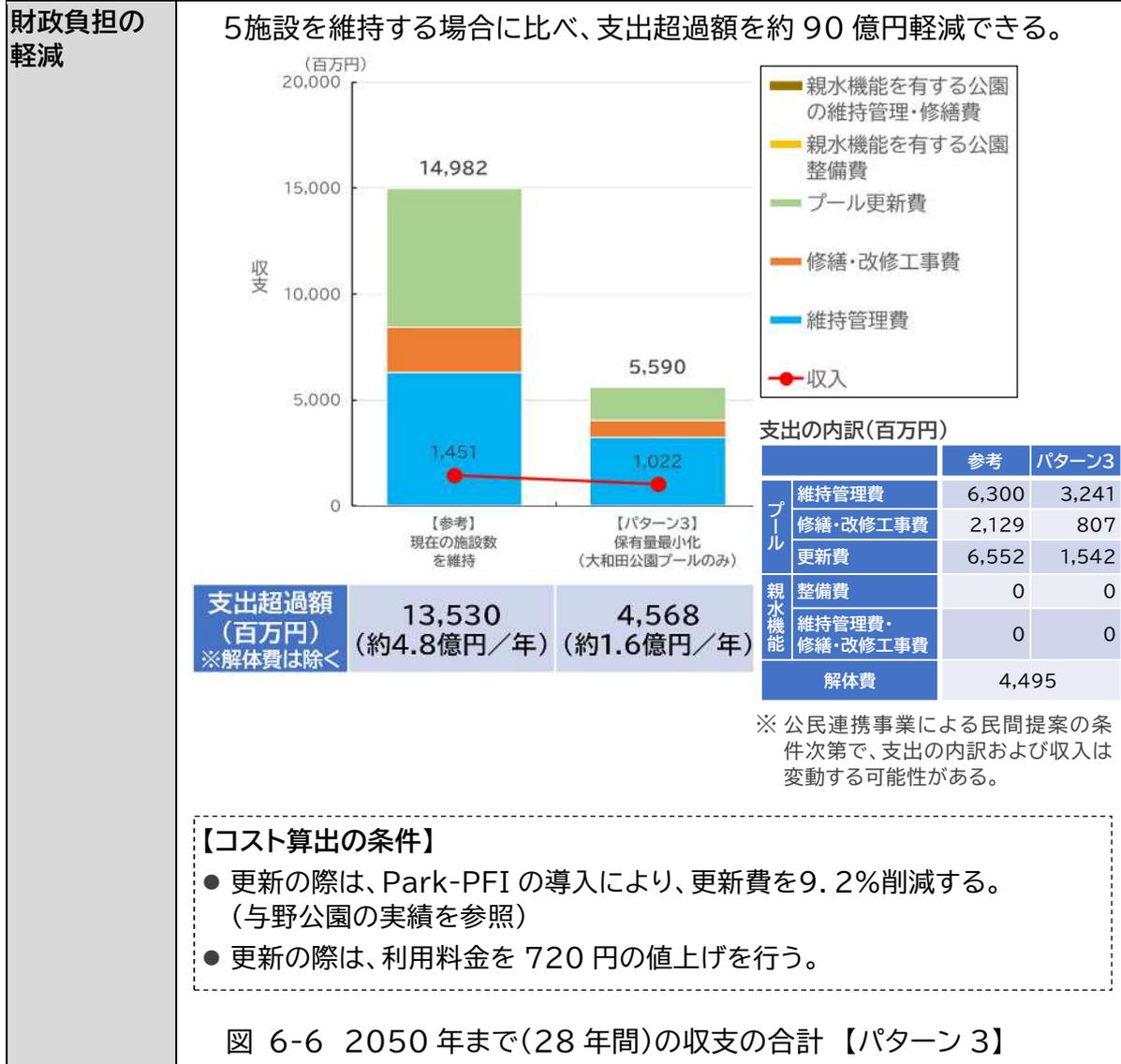
(1) パターン1:大和田公園プール・沼影市民プール新設・公園整備(原山・三橋)



(2) パターン2:大和田公園プール・原山市民プールリニューアル・公園整備(三橋)



(3) パターン3:保有量最小化(大和田公園プールのみ)



6-3 検証結果のまとめと評価

これまでの【パターン1】から【パターン3】までの検証結果を整理し、各パターンについて、地域バランスと支出超過額の2点から評価し、総合評価を行った。

【パターン1】

- 広域利用が出来る施設が北部と南部にバランスよく配置されており、需要をカバーできることから、地域バランスは○と評価した。
- 支出超過額については、5施設を維持する場合に比べ約 28 億円削減が出来るものの、他のパターンより削減額が低いため、△と評価した。
- 総合評価としては、市民ニーズに直結する地域バランスには問題がなく、コスト削減も見込めることから、○と評価した。

【パターン2】

- 北部と南部に1施設ずつバランスよく配置されているが、需要をカバーするには相当な工夫が必要であることから、地域バランスは△と評価した。
- 支出超過額については、5施設を維持する場合に比べ約 85 億円削減でき、パターン1と比べ、より削減が出来ていることから、○と評価した。
- 総合評価としては、市民ニーズに直結する地域バランスにおいて、需要をカバーするには課題があることから、△と評価した。

【パターン3】

- 北部エリアに偏った配置となり、南部エリアの需要をカバーできないことから、地域バランスは×と評価した。
- 支出超過額については、5施設を維持する場合に比べて約 90 億円削減ができ、最も削減が出来ていることから、○と評価した。
- 総合評価としては、市民ニーズに直結する地域バランスにおいて、需要をカバー出来ないため、×と評価した。

表 6-2 の下部には、プールと親水機能のイニシャルコスト・ランニングコストを記載しているが、これを見ると、親水機能はプールよりはるかに安いことが分かる。

表 6-2 集約・再編パターンの検証結果のまとめと評価

集約・再編パターン	【参考】	【パターン1】	【パターン2】	【パターン3】	
	現在の施設数を維持	大和田公園プール 沼影市民プール代替プール新設 公園整備(原山・三橋)	大和田公園プール 原山市民プールのリニューアル 公園整備(三橋)	保有量最小化 (大和田公園プールのみ)	
将来の状況	5施設を維持	5施設から 2施設に集約	5施設から 2施設に集約	5施設から 1施設に集約	
大和田公園 プール	同規模で 単純更新	公民連携によるリニューアル 利用料金の増額			
沼影市民 プール(屋外)	代替地に 同規模で再整備	公民連携により 代替地に新設 利用料金の増額	×R6 年度以降に解体 (施設廃止)		
原山 市民プール	同規模で 単純更新	プールを解体し、公民 連携により親水機能 を有した公園を整備	公民連携による リニューアル 利用料金の増額	×解体 (施設廃止)	
三橋 プール	同規模で 単純更新	プールを解体し、公民連携により 親水機能を有した公園を整備		×解体 (施設廃止)	
下落合プール (屋外)	同規模で 再整備	×中央区役所周辺の再編に合わせ、解体 (施設廃止)			
総合評価	—	○	△	×	
地域バランス	—	○ 広域利用が可能な2 施設がバランスよく 配置 需要をカバーできる	△ 2施設がバランスよく 配置 需要をカバーするに は相当の工夫が必要	× 北部エリアに偏る 南部の需要をカバー できない	
支出超過額 (百万円)	— 13,530 (年間の支出超過額)	△ 10,686 (年間約3億 8,200 万円)	○ 5,031 (年間約1億 8,000 万円)	○ 4,568 (年間約1億 6,300 万円)	
収入	1,451	2,514	1,323	1,022	
プール	イニシャルコスト*	6,552	5,502	1,819	1,542
	ランニングコスト	8,429	7,360	4,404	4,048
親水 機能	イニシャルコスト*	0	304	117	0
	ランニングコスト	0	34	14	0
解体費	4,495				

※ 公民連携事業による民間提案の条件次第で、支出の内訳および収入は変動する可能性がある。

7 レジャープールのあり方方針

7-1 レジャープールの基本的な考え方

(1) 基本的な考え方

これまでの内容を踏まえ、レジャープールの基本的な考え方を整理し、以下に示す。

- ① レジャープールは、夏季における市民の娯楽の一つとして重要な役割を果たしており、それは今後も同様である。そのため、今後もレジャープールを維持していく。
- ② 今後、人口減少や少子化により利用者数が減少することが想定されるため、財政負担の軽減に向け、施設の集約・再編を行う。
- ③ レジャープールを新設・リニューアルする際には、Park-PFI[※]等の公民連携手法の積極的な導入を検討する。
- ④ 併せて、利用料収入を確保するため、施設の魅力度が向上する場合は、民間事業者の意向を踏まえ、利用料金の改定を検討する（民間事業者の意向次第では、レジャープールの屋内化も検討する）。

※ 「Park-PFI」とは、都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図る新たな整備・管理手法のこと。

(2) 集約・再編の方向性

上記の基本的な考え方を踏まえ、以下の方向性で集約・再編の検討を進めていくこととする。

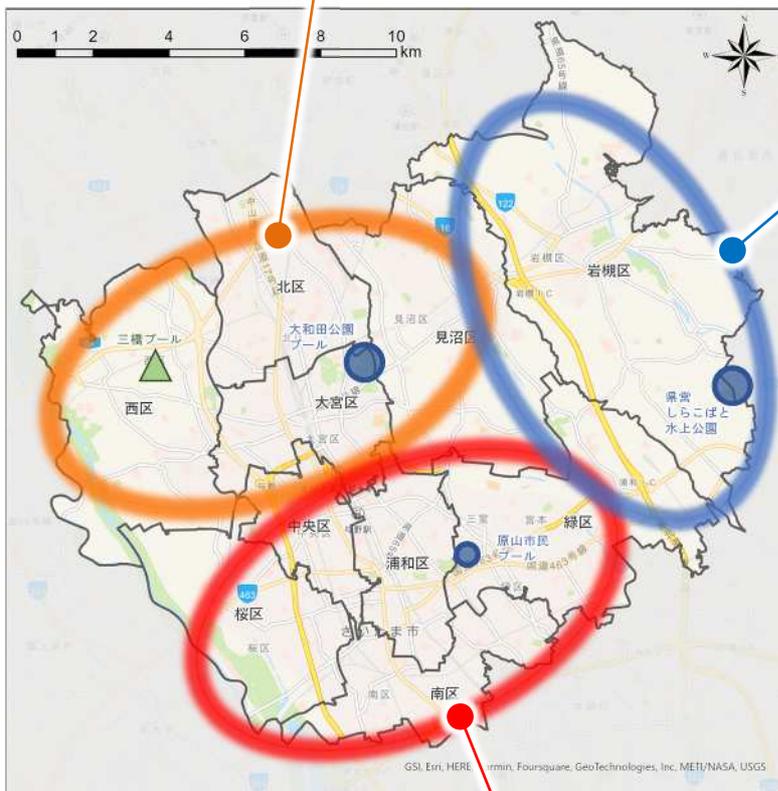
- ① 地域バランスと財政負担軽減を考慮し、北部エリアと南部エリアにそれぞれ1施設とし、5施設から2施設に段階的に集約・再編を目指す。
- ② 基本的に、集約する2施設は、広域からの市民利用が期待できる総合的なレジャープールを目指す。
- ③ 廃止となるプールについては、親水機能を有した身近な公園などに整備し、引き続き、公共空間としてサービスを提供する。

7-2 レジャープールの将来イメージ

集約・再編の方向性を踏まえたレジャープールの将来イメージを下図に示す。

北部エリア

- レジャープールは1施設に集約する。
- 大和田公園プールの更新により、継続利用する。
- 三橋プールは、親水機能を有した身近な公園などに再整備する。



東部エリア

- 越谷市境に、県営しらこぼと水上公園がプールを営業している。

【県営しらこぼと水上公園】
開設:1979年6月
面積:11.8ha(プール部分)

※ 南部エリアでは、沼影市民プールの代替地に関する検討を行う。

※ 新設・リニューアルの際は、Park-PFI等の公民連携手法の積極的な導入を検討する。

【凡例】

- レジャープール
- ▲ 身近な公園整備

南部エリア

- レジャープールは1施設に集約する。
- まずは、沼影市民プールの代替の新設を優先して検討する。
- ただし、財政負担の軽減を踏まえ、原山市民プールのリニューアルについても併せて検討するとともに、プールにしない場合は、親水機能を有した身近な公園などに再整備する。

図 7-1 レジャープールの将来イメージ

さいたま市
レジャープールの
あり方方針

令和5年11月

編集・発行：さいたま市都市局みどり公園推進部
都市公園課

さいたま市浦和区常盤六丁目4番4号

TEL：048-829-1420（計画係）

FAX：048-829-1979